



Welcome to

ILOILO



INDEX

1. 総合案内

イロイロについて,イロイロマップ

P1

2. 歴史

イロイロの成り立ちから現在まで

P6

3. みどころ

大学,教会,祭り,周辺地図,複合商業施設

P8

4. 観光

Boracay, Guimaras, Antique, Gigantes Island, Garin Farm

P21

5. アクセス

日本各地からイロイロ,マニラ空港,イロイロ空港

P27

6. ディレクトリ

ホテル,病院,空港,観光案内

P29



MK EDUCATION
Language Training Center

フィリピンの代表的なモデル都市 イロイロ

イロイロはフィリピン中央部のヴィサヤ州西ヴィサヤ地方にあるパナイ島の中心都市（人口約45万人：2015年推計）です。周辺で最も古い歴史をもつ都市で、商工業の中心になっています。

フィリピンの大学では常にランキング上位に位置するフィリピン中央大学（CPU）やフィリピン大学ヴィサヤ校、西ヴィサヤ州立大学をはじめとする約40の大学・カレッジが集中する教育学園都市で、学生も多く、講師のレベルも高いので、英語の学習にはこの上ない環境です。

また、イロイロは祭り行事で名高く、ユニークな衣装に全身を黒く塗り、熱狂的なダンスが1日中繰り広げられるディナギャンフェスティバル（1月中旬）が代表的です。

ハ口教会、モ口教会、そして世界遺産に登録されたバロック様式のミアガオ教会など、歴史ある教会も多くあり、日曜になると多くの市民が教会へお祈りを捧げに行きます。

空港から程近いサンタバーバラという町には、フィリピンで最も古く、ゴルフ通がハマる名コースといわれるゴルフ場「イロイロゴルフ&カントリークラブ」があります。

No カジノ・No スラム・No ストリートチルドレンを掲げるイロイロの街は、フィリピンでも随一の整備度合の高さを誇り、汚染が深刻な他の大都市に比べ緑地比率も高く、抜群の住環境と安全性が自慢の都市です。

観光都市というわけではないため治安が荒れる要素自体がなく、イロンゴ（イロイロ市民）たちもとにかく親切。いい意味で「同化」することが出来る・・・そんな町です。



「フィリピン中央大学」
MKが提携する大学で、フィリピン全体の中心地点がこのCPUの中にあることが名前の由来



「ダイバージョンロード」
空港から一本道でMKやSMシティまで。SMシティ前は何と両側10車線！

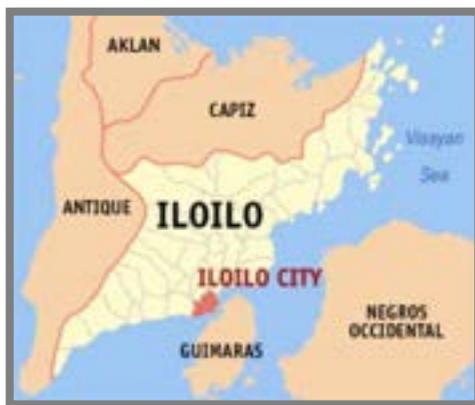


イロイロ州はパナイ島4州のうちの中心となる州です。

産業は米、サトウキビ、マンゴーなどの農業が基盤ですが、“フィリピンのアラスカ”と呼ばれるまでになった養殖漁業も経済の重要な担い手です。

また僅かながら繊維産業もあり、パイナップルの繊維から作るピニャやフシを産しています。

ピニャは結婚衣装の素材として人々のあこがれで、軽く、通気性に富み、高級感のある美しさや風格は最高級品としてフィリピンの人々に愛されています。また、長い保存にも耐え、30年以上はそのままの状態を十分保つといわれます。



熱帯気候のフィリピンには1年に2つの季節があり、

- ・6月～10月の雨季
 - ・11月～5月の乾季
- に分けられます。

なお、3月～5月が乾季の中で最も暑く、マンゴーが最も美味しく実る季節でもあります。

11月～1月下旬までは夜が涼しく過ごしやすくなります。



Iloilo Provincial Capital
(イロイロ州庁舎)

イロイロ市には180のバラングアイ(自治体)があり、アレヴァロ(Arevalo)、シティ・プロパー(City Proper)、ハロ(Jaro)、ラパス(La Paz)、マンドゥリアオ(Mandurriao)、モロ(Molo)の6つの区にまとめられています。

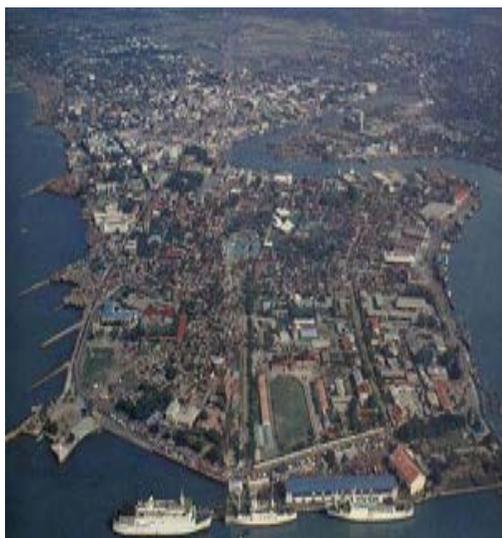
シティ・プロパーがイロイロ市の政治的・経済的中心部で古くからの港町、ハロ・マンドゥリアオ・モロは商業地区で、アレヴァロとラパスは住宅地区です。



イロイロ最大のショッピングモールであるSM City ILOILOをはじめ、MK EDUCATIONもマンドゥリアオにあります。

市内での交通は、定番の「タクシー」、4人程乗れるサイドカー付きバイクの「トライシクル」、そして20人程収容可能な乗り合いバス「JEEPNEY(ジブニー)」が主な交通手段になります。ジブニーは「THE KING OF ROAD」と言われるほど、フィリピン人の生活に欠かせない公共の交通機関です。

※もっとも、フィリピンの道路事情に慣れるまでは、安心確実のタクシーによる移動が良いかもしれません。

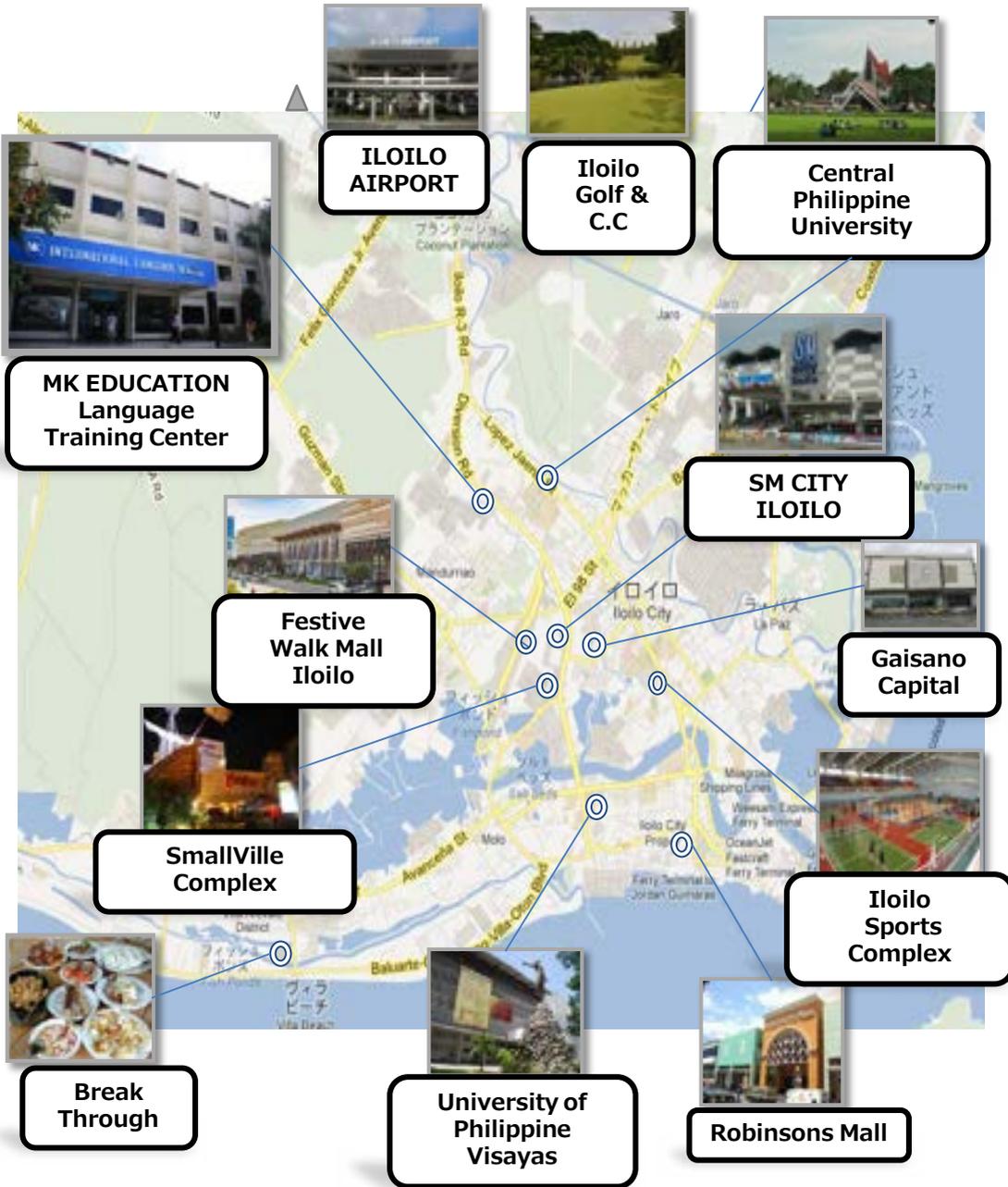


イロイロ港

イロイロ市は大都市らしく、約200社に及ぶ銀行と投資会社、保険会社、不動産会社などがあり、複数の大型ショッピングモールやプール、テニスコート、ゴルフ場など多くのスポーツ施設があります。VISA, Master, Diners, American Expressなどの主要なクレジットカードはほとんどのホテル、レストラン、ショッピングモールなどの商業施設で取り扱っています。

また、教育都市らしく市内周辺を回ってみると、多くの大学をはじめとする学校施設を見ることができ、制服を着た学生もよく見掛けます。

イロイロマップ

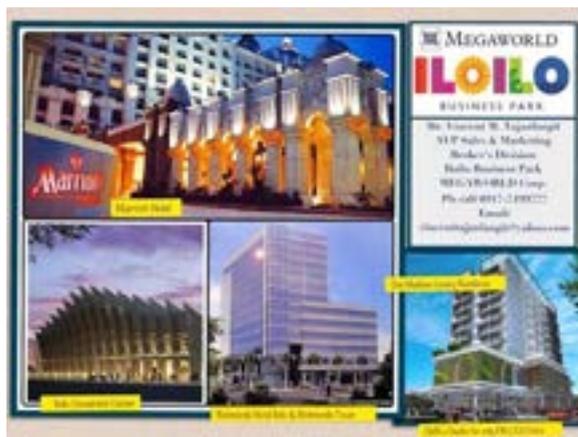


更なる高みを 目指す都市

2015年にフィリピンで開催されたアジア太平洋経済協力会議(APEC)の開催が大きなキッカケとなり、以後ミスユニバーズやASEAN会議等の国際的イベントの開催地として欠かせぬ存在となったイロイロ。

国内最大規模のBPOセンター機能を有する都市として指定されており、ビジネスパークの建設が急ピッチで進んでいます。

ヴィサヤ諸島はもとよりフィリピン国内でも有数のモデル都市の一つとして政府からのお墨付きを得て、更なる発展が見込まれているのがこのイロイロなのです。



大手不動産企業メガワールドが手掛ける「イロイロ・ビジネス・パーク」プロジェクト



独特のファサード(外観)が目を引く国際会議場
イロイロ・コンベンション・センター

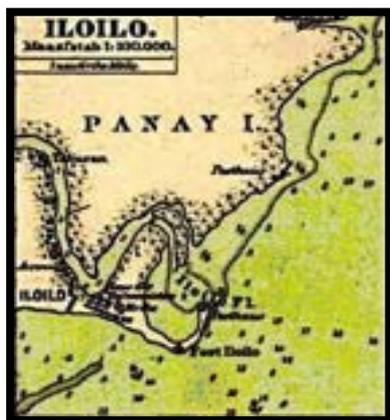


SHOPS at ATRiA



ガイサノ・イロイロ・シティ・センター
(建設予定)

イロイロの歴史



イロイロの最初の歴史はペドロ・モンテクラロの『マラグタス(Maragtas)』に記録されています。

マラグタスによれば、13世紀頃にボルネオでの圧政から逃れたマレー系の10人の領主（ダトゥ=datu）たちとその民が海を渡りパナイ島のサンホアキン（San Joaquin）という町にたどり着き、金の帽子やネックレスと引き換えに先住のアティ族の王マリクド（Marikudo）からパナイ島の低地と谷をもらい受けましたが、

ダトゥの一人パイブロン（Paiburong）はイロン=イロン（Irong-Irong、現在のイロイロ市）を受け取ったといえます。彼らの到着を祝う祭が、イロイロで最大の祭「ディナギャンフェスティバル(Dinagyang Festival)」の起源と言われています。

1566年、スペイン人ミゲル・ロペス・デ・レガスピがセブ島からフィリピン征服を始め、マニラに向かって北上していた頃、その部下達がパナイ島に来てオグトング（現在のOton）に入植しました。ゴンザロ・ロンキーロ（Ronquillo）が支配下の地元民を保護・布教活動しながら総督となり、ここから長い間スペインの支配が続きます。

1581年、ロンキーロはモロ人の海賊やイギリス・オランダの攻撃を受け、町の中心をオトンから12km西に移し、スペインの故郷の町から名をとり、ラ・ヴィラ・デ・アレヴァロ（La Villa de Arevalo）と改名。

1700年、オランダ軍とモロ人の攻撃はやまず、スペイン人植民者はさらに25km西にあるイロン=イロンの村に本拠を移しました。ここはパナイ島を蛇行する川（現在のイロイロ川）の河口で、地形的にも戦略的にも守りやすい土地でした。

彼らはサンペドロ要塞を築き、攻撃への備えとしました。イロン=イロンは「イロイロ」に短縮され、天然の良港はやがて地域の中心となりました。

18世紀末、大規模な織物産業が発展し「フィリピンの染織産業の首都」とも称されたイロイロの産品はマニラや外国にも輸出されました。

1855年にイロイロ港が世界市場に開かれ、砂糖産業により好景気を迎えます。その時代にインフラ・教育などが整備され、金融機関や商社などが設置されます。当時の富裕層たちの豪邸が今でも郊外に残っています。



この頃にはホセ・リサルなどを中心にスペインからの独立運動の機運が高まります。

なお、1898年に米西戦争が勃発しアメリカがマニラを陥落させると、その後数年間スペイン植民地政府はイロイロに首都を移転しました。

1898年12月25日、スペインはリベルタド広場(Plaza Libertad)でフィリピン革命軍に対し降伏し、フィリピン第一共和国の国旗が掲げられました。

その後、アメリカや日本による支配があったものの、独立後1960年代から1990年代にかけて、イロイロ市の経済は徐々に復興を遂げました。港の建設、企業からの投資によって、イロイロ市は西ヴィサヤの中心としての地位を維持しています。

最後にイロイロの名前の由来ですが、市内を流れる川の形が「鼻」(タガログ語で「イロン=ilong」)の形に似ていることからついたのだそうです。

イロイロの名門大学

約40の大学・カレッジが集中するイロイロは、名実共にフィリピンを代表する教育学園都市です。

フィリピン国内大学ランキングで常にトップクラスの評価を誇るプロテスタント系名門総合大学フィリピン中央大学(Central Philippine University)、国立の名門大学であるフィリピン大学ヴィサヤ校(University of the Philippines Visayas)をはじめ、西ヴィサヤ州立大学(West Visayas State University)、サンアグスティン大学(University of the San Agustin)などの名門総合大学5つをはじめ、30校を超える大学と2つの医学校があります。

フィリピン中央大学
(CPU)



フィリピン大学 ヴィサヤ校



西ヴィサヤ州立大学



サンアグスティン大学



イロイロの教会

フィリピンは東ティモールを除けば東南アジア唯一のキリスト教国で、国民の約90%以上がキリスト教徒です。そのためイロイロにもたくさんの教会が建てられており、週末には多くの方が祈りを捧げにやってきます。

多くがスペインの植民地時代に建てられた教会でルネサンス様式。1500年後半に作り始められ1800年後半にはほぼ全土に建てられました。構造や内部の備品は歴史的に貴重な物となっています。

モロ教会は教会内の聖人像がすべて女性で、この教会でお祈りすると恋人ができるとのこと。

ハロ教会はMKイロイロからも近く、教会2階にある聖人像は「ロウソクの聖母」と呼ばれていて毎年2月2日にはその聖人を讃えてお祭り「ヌエストラ・セニョーラ・デ・ラ・カンデラリア」が行われます。

モロ教会



ハロ教会



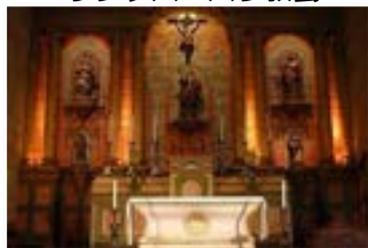
ミアガオ教会



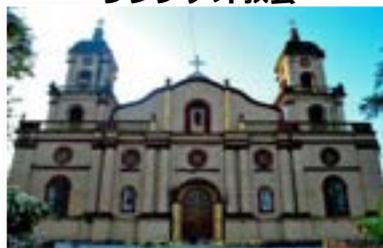
パヴィーア教会



サンタバーバラ教会



ランブナオ教会



ミアガオ教会

正式名はサント・トマス・デ・ビジャヌエバ教会（Santo Tomas de Villanueva）。

※フィリピンのバロック様式教会群として1993年にユネスコの世界文化遺産に登録。

スペイン統治時代の1787年に礼拝堂兼イスラム海賊対策用砦として建造を開始し1797年に完成しました。

建物正面は幼いキリストを連れたヨーロッパの聖人クリストファーとヤシやパイア、バナナ、グアバなど木々のレリーフが全面に施されています。植民地時代の宗教芸術には珍しいようで、ネイティブなタッチを発散する唯一の教会です。フィリピンではこの教会をアステカアートを連想させる“a unique explosion of botanical motif”で最もフィリピンらしい教会と評し、歴史記念物に指定されています。

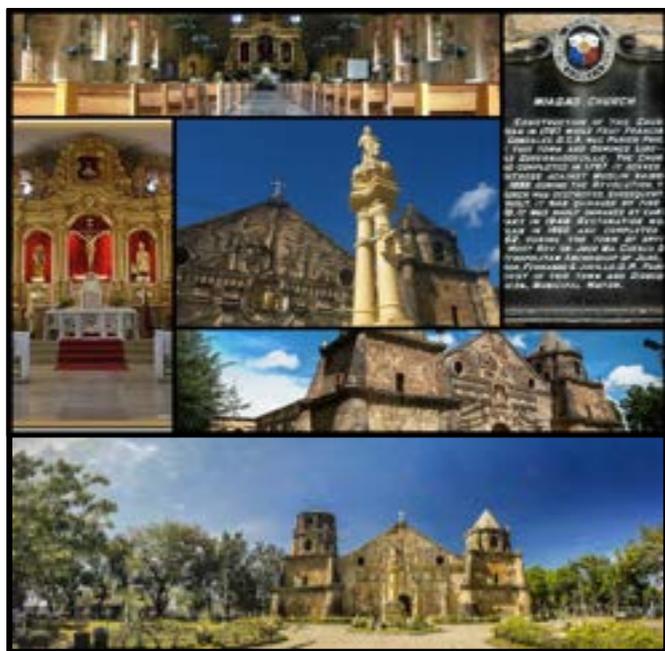
左右の鐘楼(塔)が非対称ですが、これには理由があって、建設開始当時指揮に当たったアウグスチン派のフランシスコ・ゴンザレス神父が途中で亡くなってしまい、後任者がオリジナル設計を変えてしまったためとのことです。

内部の壁の一部はサンゴ砂を卵の白身で練って塗られたとも言われています。

火事や地震で何度か被害を受けたこともあり、鐘楼の巨大な鐘はひび割れ、時の流れを感じさせます。

礼拝堂屋根中央に立つ十字架までは鐘楼から階段が通じているので歩けるとのこと。ただし手すりなどないので、海からの強風に十分注意が必要です。

※イロイロ市から約40km（車で約1時間弱）



イロイロの祭り

パラウ レガッタ フェスティバル (Paraw Regatta Festival)

毎年2月の第3週末にイロイロとギマラス島間の海峡で行われるレガッタレースです。

カラフルなヨットは「Paraw」と呼ばれ、1212年ボルネオからの最初の入植者達で使用していたとされています。速さだけでなく、ヨットの帆のデザインも採点対象とされます。



ロウソクの聖母祭

(Feast of Our Lady Of Candles ~Jaro Fiesta~)



毎年2月2日にイロイロの八口地区で開催されるキリスト教の祭典です。

「ロウソクの聖母」を祝う為に信者数千人がキャンドルを持ち八口大聖堂に集まりお祈りしたり、この地区の家族は親戚や友人を家に招待して食事を振舞います。八口地区は西ビサヤ地方で宗教上の中心地と位置付けられており、祭も規模が大きく華やかです。

旧正月

(Chinese New Year Festival)

中国旧正月の行事で、イロイロ市内のイズナルト通り(Iznart Street)から、中国の民族衣装に身を包み龍と獅子舞と共に練り歩きます。午後には、ナイトマーケット、フードフェスティバル、花火などが行われます。



ディナギャン・フェスティバル (Dinagyang Festival)

イロイロは祭り行事で名高く、ユニークな衣装に全身を黒く塗り、熱狂的なダンスが1日中繰り広げられる

「ディナギャンフェスティバル」が代表的です。

幼児のころのキリスト“サント・ニーニョ”を祀る謝肉祭であり、毎年1月第4週の土日のイロイロ市内は、色彩と音と群集が織りなす



“Dinagyang”フィーバーで狂乱のるつぼと化します。

「ディナギャン」の源流は、イロイロと同じパナイ島北部の小さな町カリボ (Kalibo) での、アティアティハン (Ati-Atihan) という13世紀頃からの祭にあります。

13世紀半ば頃、ボルネオの部族ダトゥの10家族がボルネオを逃れ、小柄で黒い肌が特徴のアティ族の移住区であった北東のパナイ島へ辿り着きました。

アティはダトゥに居住区を与え、その来訪を祝いました。新参者たちはアティ族にならない顔を黒く塗った・・・これがアティアティハンの起源とのことです。



ところが後年、スペイン人が上陸し、回教徒軍との戦いで敵を欺く為に居住者たちをアティ族に見せかけるべく肌を黒く塗り、戦闘用の衣装をまとわされたことが功を奏してか回教徒軍に勝利を収めたとき、スペイン人はそれがサント・ニーニョの守護によるものだと説きました。これがアティアティハンに宗教的意味合いが加わった発端のようです。

イロイロのディナギャンも、かつては“*Ati-Atihan in ILOILO*”と呼ばれており、ディナギャンと改名されたのは1977年のことです。名付け親は地元作家パシフィコ・スダリオです。



ダンスとドラムのメンバーで構成された平均100人前後の「トライブ」と呼ばれるチームは、前述の通り全身を黒く塗り、ド派手でユニークな衣装を身にまとい、市内数ヶ所の審査会場を巡りながら、ダンスとコスチュームで順位を競います。Viva Señor Santo Niñoという叫びが特徴的です。コンテストチームとは別に市民がそれぞれにグループを組織して、祭の1週間前から町中を練り歩きます。ディナギャンに使用される楽器はドラムだけになるので、100人単位のグループから発する音量はけたたましい轟音です。

この時期にイロイロに来た際には、ディナギャンの街中を埋め尽くす大群衆の熱気と響き渡るドラムの轟きを肌で感じて頂きたいものです。



周辺地図



- ① SM City
- ② Plazuela de Iloilo/ Plazuela dos
- ③ Megaworld / Festive Walk Mall Iloilo
- ④ Robinsons
- ⑤ SmallVille Complex
- ⑥ Atria
- ⑦ Gaisano Capital
- ⑧ City Time Square



PROVINCE
OF
ILOILO

複合商業施設

SM City Iloilo

イロイロ最大規模の総合ショッピングモールSM City イロイロは、スーパーマーケット、デパートメント、フードコート、フードホールのほかに地元ブランド、海外ブランドの多種多様なテナントが揃っており、ユニクロをはじめ、H&M、FOREVER21など日本でも馴染みのある企業もみられます。なかでもクリスピークリームドーナツやGONG CHAは日本よりもお手頃な価格で販売しています。

東京ドーム約4個にもなる広大な敷地に歩きつかれたら、モール内にはカフェやジューススタンドなど休憩できるスポットも点在しているので、時間をかけてゆっくり楽しむことができます。



Plazuela de Iloilo

南欧風の独特の外観をたたえるレストランモール、プラズエラ・デ・イロイロは、2010年のオープン以来、観光客のみならず憩いを求める地元民の注目をひきつづけています。施設内には、フィリピン料理をはじめ日本食レストラン、イタリアンレストランなど各国専門料理店を楽しむことができ、特にフィリピン料理店ブレイクスルーは、一度は訪れるべきレストランの一つです。



Plazuela dos Iloilo



プラズエラの商業機能拡大を目的としてプラズエラ・デ・イロイロと並行して建設され、レストラン等の飲食店に加え、モール等の商業施設があります。また、夜になると噴水がライトアップされ、美しいナイトスポットになります。



Megaworld Iloilo Business Park

旧イロイロ空港跡地で開発が進められているイロイロ・ビジネスパークは、2015年にAPECが開催されたイロイロ・コンベンションセンターをはじめ、コートヤードバイマリオネット、リッチモンドホテルといった高級ホテル、大型ショッピングモールFestive Walk Mallなど重要施設が集積した中心業務地区です。

一画のレストラン街では、多くの若者がバンド演奏を聴きながら週末のひと時を楽しみます。



Festive Walk Mall Iloilo



2018年6月にオープンしたイロイロ・ビジネスパーク内にある巨大ショッピングモールFestive Walk Mallは、オープン以来流行の先端をはしりイロイロに様々な“初”を届け、人々の注目を集めつづけています。最先端の映画館には、西ビサヤ地方初のDolby Atmosのスクリーンやバトラーサービス付きVIPシートもあり、お手頃な贅沢なひとときを楽しむことができます。



Robinsons Place



ロビンソンプレイスは、イロイロ市内・近郊にはイロイロ店・ハ口店・パピア店と三店舗あり、スーパーマーケット、フードコート、映画館など通常のモールに見られる施設に加え、いずれの店舗にもDAISOが出店しています。値段面では88ペソ均一と日本のDAISOにかなわないものの、生活必需品を中心に日本製品を手軽に入手することができます。

ハ口店フードコート内にあるThe Katsu Donでは、日本人シェフによる本格的なカツ丼を堪能できます。

2018年オープンのパピア店は、Byron's Back Ribs Grillなどのヴィッサー地方発のレストランが多く出店していることが特徴の一つになります。

また、イロイロ店では、S&R New York Style PizzaをS&Rメンバーズカードがなくても味わうことができます。

*S&R：会員制ショッピングセンター



SmallVille Complex

スモールビルにはローカルフードや韓国料理に中華料理、ピザやパスタなどのコンチネンタルフードなどの飲食店やバーやカフェ、クラブ、マッサージ、ビリヤード、カラオケなどの商業施設が立ち並び、観光客や若者、学生などに人気のエリアです。

夜になるとDJやバンド演奏などで賑わうイロイロ唯一のナイトスポット。



ATRIA



エイトリアは、近郊に位置するスモールヴィルの喧噪と活気とは対照的に落ち着いた雰囲気のレストランが多くあり、家族や親しい友人とゆったりと語らうのにあつらえ向きのエリアです。地元ブランドに重点を置いているのも特色の一つとなります。

また、エイトリア内のスーパーマーケットには、日本の食品や調味料が揃っております。



Gaisano Capital ICC Mall Iloilo

ガイサノ・キャピタルICCモールは、40階建多目的高層ビルを含む都市開発プロジェクトの一環として2018年5月にオープンしたショッピングモールです。施設内のスーパーマーケットの価格は、イロイロ市内の他のショッピングモールに比べ低く設定されているため、ばらまき土産を買うのにおすすめです。



City Time Square



ガイサノシティモール・キャピタルに隣接した、2017年10月にオープンしたばかりの商業施設。施設内には、落ち着いた雰囲気でも本格コーヒーを味わえるCruzena Brew Café、お手頃な値段で焼肉・お寿司食べ放題を楽しめるYakiMixなどがあり、ショッピング後の食事には最高の立地です。また、夜間ライトアップされる花を目当てに多くの地元民・観光客が訪れます。



イロイロ観光

Museo Iloilo (Iloilo Museum)

イロイロの文化遺産が展示されている博物館です。規模は小さいですが、“過去への窓 (Window of the past)”という異名があるほど、収蔵・展示内容は多岐に渡り充実しています。スペイン植民地時代の文化や芸術はもちろん、パナイ島の歴史を示す化石や石器、アジア各国との貿易品、戦時中の遺留品などがあります。多数のイエス像や地元芸術家の作品も必見です。



Lizares Mansion

リサールマンションはイロイロ・ハロ地区にある代表的な建物です。イロイロで砂糖産業が全盛期の時にLizares-Gamboa家の邸宅として使用されていました。現在は、名門私立学校のAngelicum Schoolとして使用されていて、クリスマスの時期には何千ものライトで装飾された綺麗な光景を鑑賞するために市民が集います。



Iloilo Golf & Country Club

空港近くのサンタ・バーバラという地区にある、1907年開業のフィリピンで最も歴史のあるゴルフ場です。18ホール、パー70、6,061ヤード。マホガニーの老木に囲まれた起伏あるフェアウェイ。ゴルフ好きがハマる名コースといわれています。

基本的にはメンバー制ですがビジターも利用可能です。

※なお、イロイロにはゴルフ練習場も2つあります。



イロイロの携帯事情

フィリピンの主要携帯電話キャリアは3社あり、シェアNO.1は「Smart」というキャリアです。特にイロイロ市およびパナイ島では80%以上のシェアを誇るため、現地でプリペイドSIMを購入する際はSmartがオススメです。



リゾート

世界一のリゾートアイランドにも選ばれる地上最後の楽園

BORACAY

ボラカイ島はイロイロのあるパナイ島の北に位置するシブヤン海に浮かぶ離島です。長さは約7Km、幅の狭いところでは約1Kmしかない小さな島ですが、周囲はサンゴ礁に囲まれ、**エメラルドグリーン**の海が広がります。1990年、BMWのトロピカル・ビーチ・ハンドブックの投票で「**世界最高のビーチ**」になり、2012年には、アメリカの旅行雑誌『トラベル+レジャー』によって「**世界最高の島**」と



評価された、名実共に世界最高峰のリゾートアイランド。リゾートの拠点である西海岸には「**ホワイトサンドビーチ**」と呼ばれる粉雪のように真っ白でサラサラの見事なビーチが約4kmにも渡って延びています。真昼の太陽の下で青い空、エメラルドグリーン^①の海、白い砂浜の鮮烈なコントラストが織りなす風景は、あまりにも絵はがき的で現実味に乏しい気さえるほどです。

また、夕方に白い砂浜がオレンジ、時には真っ赤に染まる「**ボラカイサンセット**」はあまりにも有名です。透き通る美しい海でシュノーケルや



ダイビングを楽しみ、疲れたらヤシの木陰で眠るのも良い気分。お腹が空いたらレストランで現地のチキンや魚を食べ、喉が渴いたらココナッツやマンゴーなどのフレッシュジュースを飲む。夜はビーチ沿いのバーで星空を眺めながらお酒を嗜む。ここボラカイにはリゾート地の全ての要素が詰まっています。

マンゴーと白砂に身も心も癒される・・・

GUIMARAS

イロイロ市の対岸に位置し“Enchanted Rock”として知られているギマラス島は、南北に約40キロメートル東西に約20キロメートルの大きさの島で、Jordan, Buenavista, SanLorenzo, Sivunag, NuevaValenciaの5つの自治区から成り立っています。

ギマラスは世界的なマンゴーの産地として非常に有名で、5万本にも及ぶ**世界一甘いマンゴー**の木があります。毎年4月の第3週には**マンゴーフェスティバル**が開催され、その時期に収穫されるマンゴーは大きくよく熟れており、口いっぱい甘さが広がります。

イロイロからはフェリーで20分程度の距離に位置しており、**白い砂浜とコバルトブルーの海**ではシュノーケリングやスキューバダイビングはもちろんのこと、アイランドホッピング、バーベキューなども楽しむことができます。

イロイロ市民にとって最も身近な週末の娯楽リゾートがギマラス島なのです。



手つかずの自然。どこまでも澄みきった穏やかな海。

ANTIQUÉ

アンティケ州はパナイ島西部に位置しており、イロイロ市から車で約2時間でアクセス出来ます。



人の手がほとんど入っていない自然の海。驚くほど透明度の高い海水。絶好の条件でスキューバーダイビングを堪能することが出来ます。(PADIライセンス取得可能)

ダイビングをしない方はシュノーケリングをご用意しており、それでも大いにアンティケの海の魅力を体感していただけるかと思います。

目の前には離れ小島「ノガス島」があり、無人島気分で海水浴や散策を楽しめます。



そして海で遊んだ後は温泉でスッキリ。ぬるめのお湯はプール気分で楽しむものにもってこい。眼前に広がる雄大な景色を眺めながらゆったりくつろげます。

アクティブな方にも、穏やかでのんびりした休日をご過ごしたい方にもピッタリの、隠れたスーパースポットです。

最後の楽園、、、孤島で自然を満喫！！

GIGANTES ISLAND

ギガンテス島はイロイロ市のあるパナイ島の北に位置し、周辺にいくつもの島々が点在する離島です。

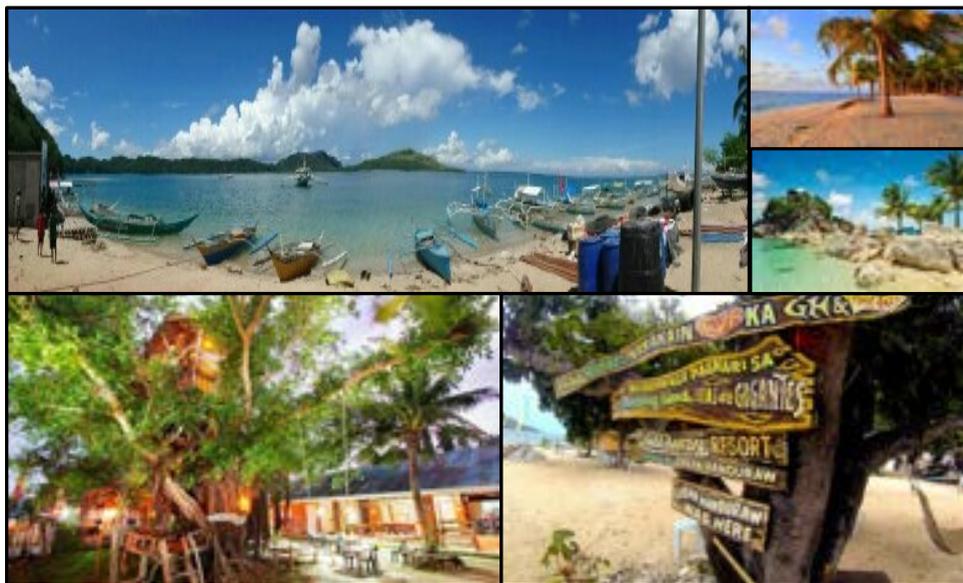
ギガンテス諸島は約10の島々で構成され、2つの大きな島をNorth Gigantes, South Gigantesと言います。



島々は未開発な部分が多く、神秘的な自然を感じゆったりとしたひと時を過ごすことができ、透明度の高い海では小さな島々を巡るアイランドホッピングやシュノーケリングの他にも、洞窟探検、ロッククライミング等の様々なアクティビティが楽しむことができます。周辺には民家等がないので、満天の星の下でさざなみの音を聴くという都会では経験できない自然体験を味わえることでしょう。

また、食事では取れたての新鮮なシーフードが味わうことができます。

イロイロ市内からは、自動車と船で約6時間程の距離に位置し、ちょっとした旅行先には持って来いです。ぜひ、一度は行って見たほうが良いとオススメする観光地です。



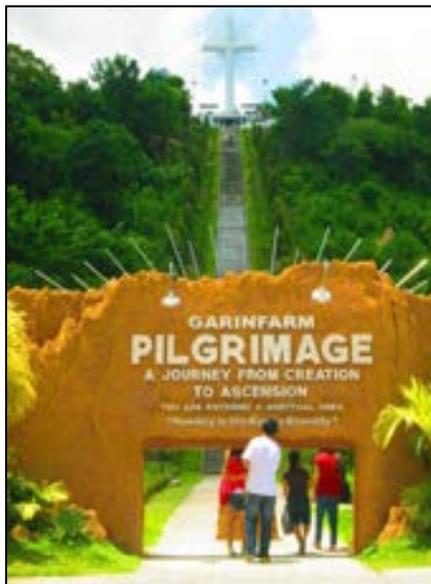
週末のちょっとした小旅行、リフレッシュ。

GARIN FARM

ガリンファームは、イロイロから西に位置し2時間程の距離にあります。イロイロ市内近郊と言うこともあり、定番の観光地のひとつです。また、途中には世界文化遺産に登録されているミアガオ教会(サント・トマス・デ・ビジャヌエバ教会)もあり、一日で二か所を巡る観光に行くのがオススメです。



インスタ映え間違いなしのガリンファームでは、豊かな自然を楽しむことができます。敷地内には有名な長い階段があり、その階段を登ると、頂上から素晴らしい景色を望むことができます。辺り一面、真白な空間が現れ、多くの白い天使の像が建つ神秘的な場所です。



イロイロへのアクセス



日本（東京）からイロイロまでは、直線距離にして約3,300 kmあります。日本からの直行便はなく、フィリピンの首都マニラやセブ、また他のアジア都市を経由することになります。

日本からマニラへは、成田国際空港、関西国際空港、中部国際空港、福岡空港、東京国際（羽田）空港、新千歳空港から直行便が運航されており、**3時間半～4時間程度**で到着します。

マニラからイロイロまではフィリピン航空、セブ・パシフィック航空の国内線が運行しており、**1時間程度**で到着します。

■フィリピン航空



アジアでは最も長い歴史を持つ航空会社であり、フィリピンのフラッグシップキャリアです。

上記の国内5空港全てに乗り入れています。マニラ ニノイ・アキノ国際空港(以下「NAIA」)にはターミナルが4つあり、そのうちのターミナル2(T2)はフィリピン航空専用です。

■ジェットスター航空



LCC（格安航空会社）で、ウェブサイトからご自身でチケットを購入できます。成田、関西に乗り入れています。マニラまでであれば恐らく最も安価で提供している航空会社です。

■セブ・パシフィック航空



LCC（格安航空会社）でありながら、フィリピン航空を抜いてフィリピン最大の航空会社となりました。チケットはウェブサイトからの購入となります。成田、関西、中部、福岡に乗り入れており、NAIAではターミナル3（T3）のみの利用となります。

他にも「日本航空（成田）」「全日空（成田・羽田・中部・関西）」「デルタ航空（成田）」「フィリピン航空（新千歳）」等がマニラとの直行運航しています。

※運航状況については随時変更となる場合があります。



※香港を経由してもイロイロへアプローチすることが出来ます。

日本各地の空港

↓
(様々な航空会社)

↓
香港国際空港

↓
(セブ・パシフィック航空：週3便)

↓
イロイロ国際空港

マニラ空港について

正式名は**ニノイ・アキノ国際空港**（略称：**NAIA**）。1～4のターミナルがあります。市内の中心部から南へ約10kmの**パサイ**と**パラニャーケ**の間に位置しています。かつては「マニラ国際空港」と呼ばれていましたが、ここで1983年に暗殺された**ベニグノ・アキノ・ジュニア**氏の愛称を冠した名称へ改称された「フィリピンの空の玄関口」です。

ターミナル1：

様々な国際線の航空会社が乗り入れており、一番混み合っているターミナルです。「ジェットスター航空」「日本航空」などが乗り入れています。

ターミナル2：

「フィリピン航空」専用のターミナルです。国際線、国内線共に乗り入れています。

ターミナル3：

新しく完成したターミナルで、「セブ・パシフィック航空」「全日空」「デルタ航空」などが乗り入れています。

ターミナル4：

国内線専用ターミナルで、一部のフィリピン系LCCの国内線が発着しています。

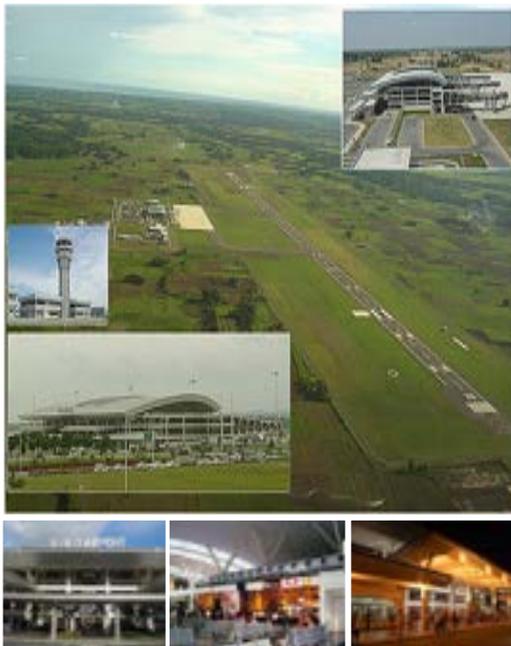


イロイロ空港について

2007年3月に完成した2,500mの滑走路、延床面積13,700m²のターミナルなどを有する国際空港。フィリピン国内各地の他、香港とシンガポールへの便があり、フィリピンで4番目に旅客数（約132万人 = 2009年）の多い空港です。

以前はイロイロ市内にありましたが、旧空港を拡張することが困難なため、需要増に対応できないことから、イロイロ市の北西約20キロのカバトゥアンとサンタ・パーバラ地区に移設されました。建設は日本の政府開発援助（ODA）によるものであり、日本とフィリピンの国旗が空港前面に掲げられています。

※なお、旧空港の跡地は「イロイロ・ビジネス・パーク」としてAPEC2015開催会場であるイロイロ・コンベンション・センターやホテル・オフィスビル・レストラン・病院等が建設されています。また、ショッピングモール「SMシティ」がすぐ近くにあり、イロイロ市のニュータウンエリアとして発展を続けています。



■ ホテル

Courtyard by Marriott Hotel Iloilo

Iloilo Business Park, Mandurriao 5000
(033)-330-7600

Richmonde Hotel Iloilo

Megaworld Blvd. cor. Enterprise Rd Iloilo Business Park,
Mandurriao Iloilo City / (033)-328-7888

Seda Atria

Pison Avenue, Atria Park District, San Rafael,
Mandurriao, Iloilo City / (033)-506-8888

District21 Hotel

Donato M. Pison Avenue Brgy. San Rafael Mandurriao,
Mandurriao / (033)-333-3321

Injap Tower Hotel

West Diversion Road, Mandurriao, Iloilo City
(033)-330-7111

Amigo Terrace Hotel

Amigo Plaza Mall, Iznart St., City Proper, Iloilo City
(033)-335-0908

The Centennial Resort Hotel

Alta Tierra Village, Jaro, Iloilo City / (033)-329-2288

Jaro Bellevue Pensionne

Carter West Centre, Lopez Jaena St., Jaro, Iloilo City
(033)-320-9521 to 23

Iloilo Business Hotel

Benigno Aquino Jr. Ave., Mandurriao, Iloilo City
(033)-320-7972 to 74

MO2 Westown Hotel

Benigno Aquino Jr. Ave., Mandurriao, Iloilo
City / 509-0202

The Grand Dame Hotel

Cor. Rizal - Huervana Sts., La Paz, Iloilo
City / 320-5252

Iloilo Midtown Hotel

888 Yulo St., Iloilo City, 888, Yulo St.,
Iloilo City / 336-6888

Days Hotel

4th Floor, The Atrium, Gen. Luna St., Iloilo City
337-3297

Casa La Granja

195 Lopez Jaena Street, La Paz, Iloilo City
320-3473

Sarabia Manor Hotel

101, Gen. Luna St., Iloilo City
335-1021 to 32

Century 21 Hotel

Quezon St., Quezon St., Iloilo City
335-8821 to 23

Eon Centennial Plaza Hotel

Jalandoni St., Iloilo City / 337-2277

Highway 21 Hotel

Gen. Luna St., Iloilo City / 335-1840

Hotel Centercon

J.M. Basa St., Iloilo City / 337-3431 to 33

Hotel Del Rio

M. H. Del Pilar St., Molo, Iloilo City / 337-1171

Iloilo Grand Hotel

Iznart St., Iloilo City / 335-1801 to 04

■ 病院

QualiMed Hospital

Donato Pison Ave, Mandurriao, Iloilo City
(033) 501 4843

Iloilo Doctors Hospital Incorporated

West Avenue, Molo, Iloilo (033)-337-7702 to 09

Iloilo Mission Hospital

Mission Road, Jaro, Iloilo (033)-320-0315 to 19

St. Paul's Hospital

Gen. Luna St., Iloilo City
(033)-337-2741 to 49 Local 2083 or 6317

■ 空港

Air Philippines

Office in Iloilo City: General Luna St., City Proper
(Near Tijuana Restaurant and Bar)
Contact No.: (+63)(33)3208048 /
(+63)(33)3208049 /
(+63)(33)5085513

Cebu Pacific

Office in Iloilo City: SM City Iloilo, Diversion Road,
Mandurriao District
Contact No.: (+63)(33)3208017 /
(+63)(33)3206889 /
(+63)(33)3206582 /
(+63)(33)3294660

Philippine Airlines

Office in Iloilo City: Diversion Road,
Mandurriao District (Beside SM City)
Contact No.: (+63)(33)3203030
(+63)(33)3203131
(+63)(33)3207151

Zest Air

Office in Iloilo City: Martmart Mall and the
New Iloilo Airport
Contact No.: Mobile: (+63)9178911049
(+63)9173051038

■ 観光案内

The Department of Tourism (DOT)

Bonifacio Drive, City Proper, Iloilo City
Landline: (033)3375411
Telefax: (033)3350245

Related Contact numbers:

Iloilo City Tourism Office: (033)337-2172
(033)336-7572

DOT Information Center: (632)524-1703 (Manila)

フィリピン随一の治安の良さを誇り、住みたい都市No.1に選ばれたイロイロ市に所在し、最大級の規模と最高級の品質を誇る英語学校

MK EDUCATION Language Training Center

留学に関するお問い合わせは・・・

MK EDUCATION 日本事務所

〒153-0063

東京都目黒区目黒1-4-16 目黒Gビル 7F



0120-815-162



info@815162.com

<https://815162.com/>



MK EDUCATION
Language Training Center